

令和 3 年 5 月 20 日現在

機関番号：12602

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2017～2020

課題番号：17K13461

研究課題名(和文)旧南洋群島における日本語借用語の影響記述に関する福祉言語学的研究

研究課題名(英文)Welfare linguistic study on the influence of Japanese loanwords in Micronesia

研究代表者

今村 圭介(Imamura, Keisuke)

東京医科歯科大学・教養部・助教

研究者番号：00732679

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,600,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、旧南洋群島の中心であった国の言語であるパラオ語における日本語借用語の影響を明らかにし、研究結果を基に現地の関係者との協働により辞書・資料を作成することを目的とした。調査による記述資料をもとに、教育関係者や言語政策関係者と定期的にコミュニケーションを図り、辞書を作成した。作成した辞書はパラオ教育省に寄贈し、現地の学校に配られた。若年層の日本語借用語の使用は大幅に減少しており、辞書の作成は異なる世代間の相互理解を促進するものとなることが期待される。一連の取り組みを福祉言語学としての位置付けを論じ、同研究分野の発展に役立てた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

パラオ語における日本語借用語辞書を作成し、現地の機関に寄贈することで、現地の教育に役立てた。辞書はパラオにおいて注目を集め、新聞などのメディアで取り上げられた。さらに在日日本パラオ大使館にも研究成果を提供することで、「両国の友好関係を深める」という目的にも間接的に役立てた。また、その取り組みの福祉言語学的研究としての位置付けを論じ、基礎研究が福祉言語学的研究に発展する過程と、基礎研究と社会貢献の相互関係について論じた。そこから、「当該コミュニティとの関係構築」「関連機関との連携」「研究のアウトプット」を積極的に行うことにより、「研究成果の社会的貢献」につながることをその重要性を示した。

研究成果の概要(英文)：This study aimed to investigate the influence of Japanese loanwords in Palauan, a language of former Japanese colonies, and develop a Japanese loanword dictionary with Palauan local institutions. Based on the Japanese loanwords collected by fieldwork, the dictionary was developed and provided to local schools through Palauan Ministry of Education. The use of Japanese loanwords are slowly decreasing and this dictionary is expected to help the communication between the older generation and the younger generation in Palau. The process of the research has been discussed as a research of "welfare linguistics" and helped the advancement of the research field.

研究分野：社会言語学

キーワード：福祉言語学 パラオ語 旧南洋群島 ミクロネシア 借用語

1. 研究開始当初の背景

近年、海外の日系コミュニティや旧植民地における日本語の研究が、日本語の一変種として注目され、その特徴の詳細に関する研究が進んできている(簡 2011『台湾に渡った日本語の現在』、朝日 2012『サハリンに残された日本語樺太方言』など)。日本語の言語接触の結果起こった現象として、日本語変種の他に、現地語における日本語語彙の借用が見られる。旧南洋群島の言語においては、特に日本語借用語の影響が大きいにも関わらず、これまで研究が十分に行われてこなかった。旧南洋群島における日本語借用語の研究は、語彙リストの整理にとどまっておらず、日本語借用語が現地語に与えた変化の具体的な記述や各借用語の詳細な意味用法の記述など、日本語借用語が与えた本質的な影響に関する記述研究が見られない。これまでの旧南洋群島における日本語研究の成果に加え、日本語借用語の影響を詳細に明らかにすることで、日本語が当該地域に与えた影響の全容の解明につながると考えた。

これまで研究代表者はそのような問題意識から、パラオ語における日本語借用語の語彙的・音韻的影響の世代間の相違について記述研究を始めた。同時にパラオ政府の言語政策機関 Palau Language Commission と研究協力を始め、現地の言語研究へのニーズを知るようになった。パラオ国内ではパラオ語の保全のためにパラオ語教育の発展が望まれているが、そのために必要な既存のパラオ語に関する資料が非常に限られている。そのため、辞書や歴史的变化に関する記述資料の作成に対するニーズが高い。研究代表者は、Palau Language Commission から日本語借用語に関してそのような辞書・資料を作成する要請を受け、日本語学的な記述研究を進めるとともに、現地コミュニティへの貢献をしていきたいと思い、本研究を構想した。

2. 研究の目的

本研究は、1.旧南洋群島の中心であった国の言語であるパラオ語における日本語借用語の影響の詳細を明らかにし 2.研究結果をまとめ、現地の関係者との協働により辞書・資料を作成すること、3.それらの取り組みをまとめ福祉言語学的研究の発展に寄与すること、を目的とした。

過去の日本統治による社会変化により日本語借用語が取り入れられ、その後多くが使われなくなっていく。生活の変化の結果として具体名詞が、近代的な概念を表現するため、また日本語の表現による思考様式が入った結果として抽象名詞や動詞が取り入れられた。例えば、*mottainai* (もったいない)、*otsuriganai* (おつりがない) は物質文化・貨幣経済が流通した結果として入った借用語である。また、現在 400 語程度が使用されなくなりつつあるが、それもまた戦後の社会変化によるものである。個々の日本語借用語が取り入れられた、また使用されなくなった歴史的背景を合わせて考察することで、日本統治時代を中心としたパラオ語の歴史的な変化を鮮明に記述する。

現在のパラオ語で使用されている日本語借用語は個人差が大きい、使用数が多い若年層話者は 550 語程度の日本語借用語を使用する。現代パラオ語の一部として機能する日本語借用語の詳細の意味用法は既存の辞書には記載がない。例えば、*fkas* は「芋を蒸かす」という意味に加え、「エンジンを蒸す」という意味でお使用されるが実際に記述が見つかるのは、前者の意味のみである。また、既存の辞書に載っていない語も多く、それらの語の実際の使われ方は明らかでない点が多い。そのため、日本語借用語の意味範疇のどの点が現地語に取り入れられているのかを明らかにし、現代パラオ語における日本語借用語の多様な機能を明らかにしていく。

日本語借用語の未来は、現在広く使われている 550 語が別の語(特に英語借用語)での言い換え可能性、または日本語借用語全体の使用に対するパラオ人の言語意識に関わる。パラオでは近年英語借用語のパラオ語への言い換えが推奨されており、日本語借用語にもそのような影響が及ぶ可能性もある。そのため、全世代で広く使われている日本語借用語に対しての意識と、類義語との意味範疇の差を明らかにし、各日本語借用語の定着か衰退かの未来を予測していく。

記述資料をもとに教育関係者や言語政策関係者と定期的にコミュニケーションを図り、辞書および日本語借用語によるパラオ語の変化の記述資料を作る。若年層の日本語借用語の使用は大幅に減少しており、老年層が使用する語が理解できないこともあるため、辞書の作成は異なる世代間の相互理解を促進するものとなる。また、日本語借用語によるパラオ語の歴史的变化の記述は、パラオ社会の近代化による現代パラオ語の成立を学ぶための重要な資料となる。

以上の研究過程を、福祉言語学(WL)を目指した研究の一事例としてまとめ、同分野の発展に役立てる。本研究が一つのモデルとなるわけではないが、具体的な報告が少ない WL の研究プロセスを記し、事例を共有することが WL の発展に重要であると考えた。

3. 研究の方法

各年度で日本語借用語の記述研究と並行し、現地との協働を行い、最終年度に教育教材・辞書作成を行うことが全体計画であった。

日本語がパラオ語にもたらした歴史的变化の記述を行った。歴史的变化の記述には当時の日本統治がもたらした社会変化が最大の原因である。そのため、既刊の歴史資料を集め社会変化についてまとめ、パラオにおいて 1 次資料および 2 次資料を収集した。まとめた資料を基に日本

統治(1914~1945)の間に起きた社会変化から日本語の借用語が組み込まれた要因を詳細に考察した。さらに、日本語借用語の収集を行なった。借用語は、a)既存の辞書を含む様々な資料を収集、b)多くのパラオ人に対する聞き取り調査、c)旧南洋群島の他の言語において取り入れられている日本語借用語がパラオ語でも使われるかの調査、d)言語景観における日本語借用語の使用調査、を通じて1000語前後の日本語借用語を収集した。この数は既存のパラオ語の辞書 Josephs(1990)に収録されている数の倍近くである。

また、動詞・抽象名詞以外に関して維持状況を分類し(「維持」「概念が使われなくなった」「英語借用語が使用される」「元のパラオ語が使用される」「その他」)、どのカテゴリで日本語借用語が定着しており、定着していないカテゴリではどのように使用される語彙が変化しているかを明らかにした。さらに、日本語借用語の意味用法とプロトタイプを明らかにするため、また言語資料として日本語借用語のわかりやすい記述のために、具体名詞の写真撮影、抽象名詞や動詞、形容詞に、例文作成を行なった。

上記の辞書資料に関して、Palau Language Commission、教育省関係者等と協議を続け、内容の議論及び修正などを行うとともに、教育的な利用の可能性を高めた。

4. 研究成果

上記の研究手法による日本語借用語の記述をもとに辞書を作成、出版した(Imamura, Keisuke 2019 *A Dictionary of Japanese Loanwords in Palauan*, iREi Micronesia, Pohnpei)。また印刷した辞書の480部はパラオ教育省に寄贈し、現地の教育に役立てた。一連の研究の流れは、福祉言語学的な研究としてまとめ、同研究分野の発展に役立てた(今村圭介(2021)「福祉言語学的研究を目指したパラオ語日本語借用語辞典の作成」『社会言語科学』)。なお、借用語の記述研究の成果は今後発表する予定である。

辞書の構成は、「Introduction」「Dictionary」「Class Activity Examples」である。第一部では、辞書の作成に関する情報、使用方法、借用語の綴り体系、日本統治の概略を記した。これにより、辞書の使用をスムーズにするとともに、補足的に借用語に関わる情報が学べるようになっている。図1は辞書のサンプルである。辞書が収録している情報は、「見出し語」「品詞」「原語」「原語でローマ字表記」「パラオ語例文」「英訳」「写真」「類義語」である。

戦後に日本語話者が減少する中で、使用される日本語借用語の数も減少している。そのため、写真と例文を入れることで、若年層を中心に認知されない語の理解を促すことを可能にする。それらの情報をもとに、パラオ語に入った際の音の変化、品詞の変化、また意味用法の変化を確認できる。また、元の日本語の単語が使用されなくなっている場合は、その旨を(obsolete)と示し(例:乳バンド *tsitsibando*)、パラオ語の接頭辞が結合して新たな語を作る場合は(hybrid)と示す(例: *ouhaikiu*)。元の単語の意味が異なる場合は、日本語の単語の意味を括弧内で説明し、その違いがわかるようにしている。

巻末にはClass Activity Examplesを含めている。これは教育ツールとして活用を促すために、パラオ語教師が辞書をどの様に活用できるかのアイデアを提供する必要があるためである。そのために、辞書を活用したクラス内活動のサンプルを作成し辞書に付した(図2、図3)。クラス活動はあくまでもサンプルではあるが、これをもとにパラオ語教師が自身で活動のアイデアを考え、応用していく狙いがある。

そのような点については、Palau Ministry of Educationの担当者とパラオ語教師20名と教師研修を行い、共有済みである。教師研修では、約1時間半程度で、辞書の作成経緯、辞書の構成について説明、辞書を用いた、いくつかの学習活動について説明、質疑応答、活用方法やレイアウトに関する議論、を行なった。それにより教室における辞書の活用方法の具体的なイメージを獲得してもらう狙いがあった。教師の反応からその目的は達成することができた。

印刷された辞書480部を、教育省に寄贈することができ、パラオの学校に数十部ずつ配布することにより、各教室で生徒が実際に手にとって学習ができるようになった。今後は、現地に教育内容に関わる点であるため、パラオ教育省に一任することになる。同時にパラオに行く機会がある度にパラオ教育省の担当者とコミュニケーションをとり、できる限りのフォローアップをしていくことになるだろう。

辞書作成は教育に役立てることが第一目標であったが、結果的に、在パラオ日本大使館による「両国の友好関係を深める」という目的にも微小なりとも役立てることができた。大使館は、研究成果を利用し、日・パラオ外交関係樹立25周年記念動画の作成、日本語借用語を使ったエッセイコンテストなどを行なっている。

本研究の福祉言語学的な研究としての位置付けを論じ、研究の流れの記述から福祉言語学の重要な要素として、「研究成果の社会的貢献」「当該コミュニティとの関係構築」「関連機関との連携」「研究のアウトプット」の重要性が改めて示された。また、言語研究と社会貢献が、お互いに有益に働き合うことが示され、それが福祉言語学の一つの形であることを示すことができた。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計3件（うち査読付論文 3件／うち国際共著 0件／うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 今村 圭介、ダニエル・ロング	4. 巻 18(2)
2. 論文標題 ヤップ語における日本語起源借用語の特徴	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日本語の研究	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Keisuke Imamura	4. 巻 12.1
2. 論文標題 Pursuit of insular authenticity: Spelling reform of loanwords in Palauan Shima	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Shima	6. 最初と最後の頁 118-127
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.21463/shima.12.1.11	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 今村 圭介	4. 巻 37
2. 論文標題 日本統治を経験したパラオ人によるパラオ語の片仮名表記	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 日本語研究	6. 最初と最後の頁 31-42
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計8件（うち招待講演 0件／うち国際学会 3件）

1. 発表者名 今村圭介、ダニエル・ロング
2. 発表標題 ミクロネシア地域の言語における日本語起源借用語の比較研究
3. 学会等名 日本語学会2019年度秋季大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Keisuke Imamura
2. 発表標題 Introduction and the Use of "A Dictionary of Japanese Loanwords in Palauan"
3. 学会等名 Teacher training, Palau Ministry of Education
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Keisuke Imamura
2. 発表標題 Building Rapport and Social Contribution Through Sociolinguistic Fieldwork
3. 学会等名 Source-Analysis Workshop "The Studies of the Empire of Japan and Its Legacies: New Directions and New Perspectives"
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Keisuke Imamura
2. 発表標題 Developing a Japanese Loanword Dictionary in Palauan
3. 学会等名 Preinaugural Symposium "The Studies of the Empire of Japan and Its Legacies: New Directions and New Perspectives"
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 今村 圭介
2. 発表標題 福祉言語学的研究としてのパラオ語日本語借用語辞典の作成
3. 学会等名 日本語学会2018年度秋季大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Keisuke Imamura
2. 発表標題 From sociolinguistic fieldwork to social contribution: Cooperative work with the Palau Language Commission
3. 学会等名 Sociolinguistics Symposium 22 (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Keisuke Imamura, Jonathan Masaichi
2. 発表標題 Documenting Japanese loanwords in Palauan
3. 学会等名 36th International PIBBA Conference (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 高野駿、今村圭介
2. 発表標題 言語接触史を言語教育に応用する試みーパラオ語の日本語起源借用語ブックレット作成ー
3. 学会等名 韓国日本語学会 (国際学会)
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計2件

1. 著者名 Imamura, Keisuke	4. 発行年 2019年
2. 出版社 Island Research & Education Initiative	5. 総ページ数 123
3. 書名 A dictionary of Japanese loanwords in Palauan	

1. 著者名 今村圭介、ダニエル・ロング	4. 発行年 2019年
2. 出版社 ひつじ書房	5. 総ページ数 232
3. 書名 パラオにおける日本語の諸相	

〔産業財産権〕

〔その他〕

A Dictionary of Japanese Loanwords in Palauan https://sites.google.com/view/palau-japanese-loanwords/home
--

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------